

SRI LANKA

スリ・ランカ

コロンボ港開発事業 () コロンボ港拡張事業 () ~ ()

評価報告：1999年3月

現地調査：1999年1月

1 事業の概要とOECFの協力

(1) 背景

コロンボ港はインド洋の中央に位置する、東南アジア、南アジア、中東湾岸、東アフリカの各港を中継する基地港であり、近代的なコンテナ荷役設備を有する国際港としての評価も高い。しかしながら、80年代以降、世界的な船舶貨物のコンテナ化の潮流からコロンボ港のコンテナ取扱量は増加を続けており、これに対応するには、更なる港湾の能力増強が必要とされていた。

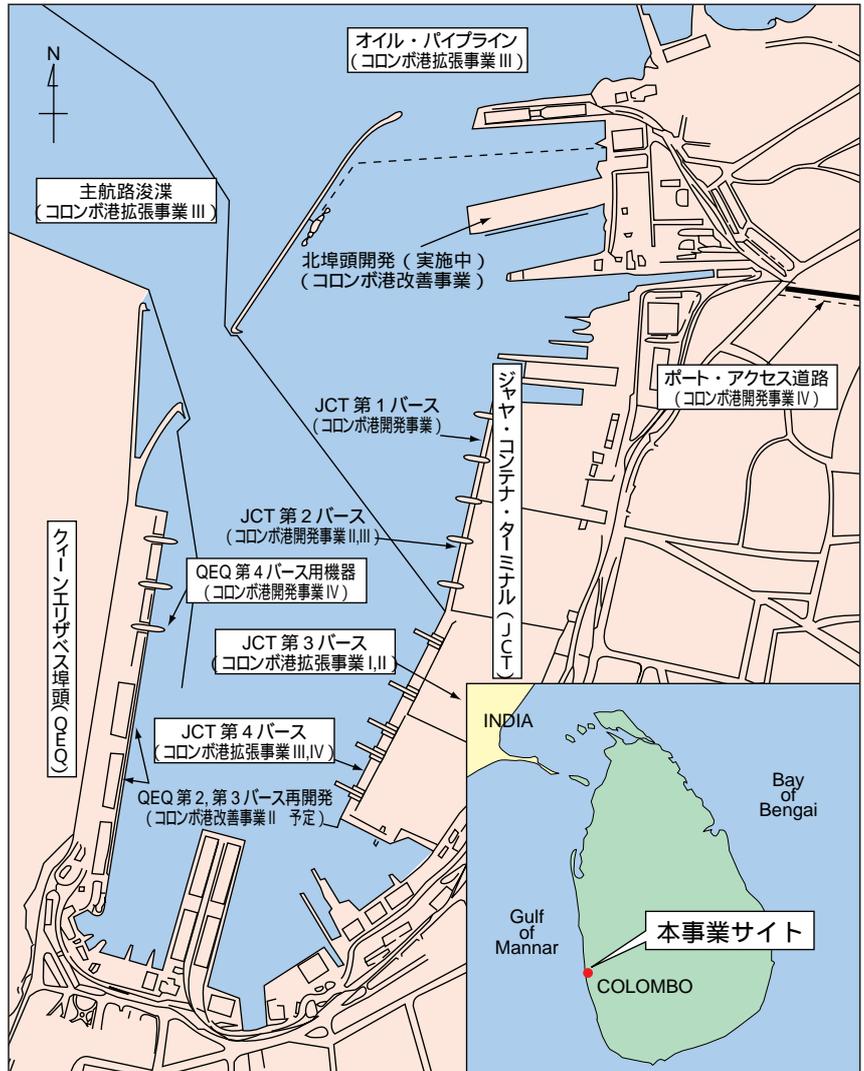
(2) 目的

コロンボ港におけるコンテナ取扱能力の増強。

(3) 事業範囲

円借款による一連のコロンボ港関連事業と、今回の評価対象部分との関係は以下のとおり（以下、「開発事業」という場合は「コロンボ港開発事業(IV)」を、「拡張事業」という場合は「コロンボ港拡張事業(I)~(IV)」を指すものとする）。

OECF借款対象は、建設工事および機器調達にかかわる外貨分および内貨分の一部である。



事業名	事業範囲	備考
コロンボ港開発事業 (I) ~ (III)	新規バース×2の建設と機器調達	事後評価済
コロンボ港開発事業 (IV)	既存バース×1の機器調達、アクセス道路建設	今回評価対象
コロンボ港拡張事業 (I)(II)(III)(IV)	新規バース×2の建設と機器調達、 既存バース×2の機器調達、主航路浚渫、 パイプライン敷設、港湾管理運営システム整備、 マネージメント・コンサルティング・サービス	
コロンボ港改善事業 (I)・(II)	新規バース×1の建設と機器調達、 既存バースの再開発と機器調達	事業実施中

(4) 借入人/実施機関

スリ・ランカ民主社会主義共和国政府 / スリ・ランカ港湾公社 (SLPA)

(5) 借款契約概要

貸付承諾額/実行額(2事業合計)	48,088百万円 / 44,877百万円
借款契約調印(契約No.)	87年10月～93年8月(SL-P12, -P23, -P27, -P30, -P33)
借款契約条件	金利2.75%(P12), 2.5%(P23, P27), 2.6%(P30, P33)、全借款契約 返済30年(うち据置10年)、部分アライト(ただしP33は一般アライト)
貸付完了	1994年1月～1998年12月

2 評価結果

(1) 事業実施

事業範囲

バースは予定どおり建設された。機器(クレーン)の調達については、拡張事業において当初計画より台数が増加した(41トックレーン:24基 29基、35.5トックレーン:7基 15基)。これは、増加を続けるコンテナ取扱量に対応すべく、事業の実施途中で見直された結果であり、その後の取扱量の推移からみて妥当な追加であったと判断される。

工期

開発事業(IV)のアクセス道路建設で2年超の遅れがあった以外は、いずれも長くて1年以内の遅れに収まっており、全体としては円滑な実施であったといえる。アクセス道路の遅れは、用地取得の遅れによるものだが、港湾本体の稼動に直接的な影響は与えていない。

事業費

開発事業(IV)および拡張事業の合計で、事業費総額および借款対象額ともわずかにアンダーランとなった(総事業費 6.3%、借款対象 6.7%)。理由は、入札の結果、バース建設費用および機器調達費用が計画をやや下回ったためであり、特に問題はない。

主要計画 / 実績比較

(1) 事業範囲	計画	実績
ポートアクセス道路建設	4車線 × 1,735m	4車線 × 1,815m
JCT第3バース建設	長さ330m、水深13.5m	長さ330m、水深14.0m
JCT第4バース建設	長さ330m、水深14.0m	長さ332m、水深14.0m
荷役機器調達	コンテナクレーン 8基 トランスファークレーン23基	11基 33基
主航路浚渫	浚渫量1,500千m ³ 、水深15m	浚渫量1,471千m ³ 、水深同じ
オイルパイプライン建設	9本 × 1,700m	11本 × 1,455m
港湾管理運営システム開発 マゼ/ミト/コガレック	新規システム開発、航行支援施設 Stage 1 / Stage 2に分けて実施	同左 + ホストコンピュータ追加 同左
(2) 工期		
ポートアクセス道路建設	1987年 8月 ~ 1991年 8月	1987年 8月 ~ 1993年 9月
JCT* 第3バース建設	1986年 6月 ~ 1993年 7月	1989年 6月 ~ 1994年 12月
" 主要機器調達	1990年12月 ~ 1993年 7月	1992年 2月 ~ 1994年 12月
JCT* 第4バース建設	1992年 7月 ~ 1996年 5月	1992年10月 ~ 1996年 5月
" 主要機器調達	1993年 4月 ~ 1995年 8月	1993年 8月 ~ 1995年 12月
主航路浚渫	1992年 7月 ~ 1995年10月	1993年 4月 ~ 1996年 6月
オイルパイプライン建設	1992年 7月 ~ 1995年10月	1993年 5月 ~ 1996年 12月
港湾管理運営システム開発 マゼ/ミト/コガレック	1992年 7月 ~ 1995年10月 1997年 9月 ~ 1998年12月	1994年 1月 ~ 1998年 3月 1997年 9月 ~ 1998年 12月
(3) 事業費		
総事業費	51,633百万円	48,404百万円
うち、OECF借款分	48,088百万円	44,877百万円

(*JCT:ジャヤコンテナターミナル)

(2) 実施機関の体制(実施および完成後の運営・維持管理)

実施体制

実施機関はスリ・ランカ港湾公社(SLPA)。SLPAはコロombo港管理委員会などを前身として1979年8月に設立され、

スリ・ランカの商業港4港すべてを管理している独立採算制の組織。SLPAは設立前後から、積極的に世界的なコンテナ化への対応を開始しており、円借款事業としてもコロンボ港開発事業（I）～（III）を実施した経験を有している。本事業でも、調達手続きにやや遅延がみられた以外は、順調に事業を実施した。

また、コンサルタントおよびコントラクターの能力にも特段の問題はない。

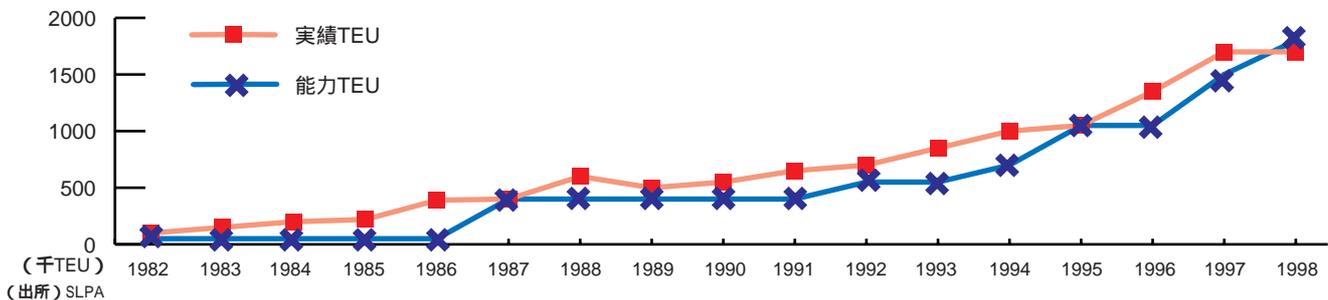
運営・維持管理

コロンボ港全体について、SLPA自身が運営・維持管理を担当する。クレーンなどの主要機器については、予防的管理を行っていることもあり、港湾全体としては基本的には大きな問題もなく運営・維持管理されている。ただし、比較的小額な機器やスペアパーツの調達にやや時間を要する点は改善の余地がある。なお、効率改善に関しては、拡張事業（IV）にて実施されたマネジメント・コンサルティング・サービスにて各種提言がなされており、これらの実行により、更なる能力増強が期待される。

施設利用状況

今回の評価対象事業により増強された施設は、完成直後から100%の稼動を継続している（下図。ただし、1998年は取扱能力および実績とも見込み）。

コンテナ取扱能力および実績



(3) 事業効果

コンテナ取扱能力の増強

上図からもわかるとおり、コロンボ港のコンテナ取扱能力は本事業の実施により着実に増強が図られてきており、現在の能力は180万TEU/年と、事業開始前の約4.5倍となっている。

外貨獲得

コロンボ港のコンテナ取扱量のうち、常に70%前後は近隣港向けコンテナの積替え（トランシブメント）が占めており、その料金（ドル建）収入は実施機関（SLPA）にとっての外貨収入となる。これが、1997年の実績で170百万ドルに達する。

FIRR

バースの新規建設と機器調達を事業範囲とし、事業効果の把握しやすい拡張事業（ただし、マネジメント・コンサルティング分は除く）についてFIRRを再計算したところ、8.0%となった。これは審査時の11.6%～11.4%と比較してやや低いのが、理由は、初期投資が予定より低かったものの、運営・維持管理費用が審査時見込みを上回っているためである。

3 教訓

事業の円滑な実施および適切な維持管理のためには、実務的業務（例えば、小額な機器やスペアパーツの購入）の決定権の現場責任者レベルへの委譲が効果的なことがある。その場合、OECDとしては、実施機関がそのような体制の整備・構築を検討するよう、実施機関と協議していくことが重要である。（協議にあたっては、各種決定権にかかる当該国の調達ガイドラインなどとの関係に十分留意する必要がある。）



コロンボ港全景（北東方向からの航空写真）



QEQターミナル



JCTターミナル（No.1）荷役作業の様子